



ガリガリ君 E-mail 通信

令和7年11月(第205号)

下水道既設管路耐震技術協会

今月号では、能登半島地震の復旧復興状況の他、上半期の施工や問い合わせの実績、最近の展示会への出展やデモ施工の実施等、協会の活動状況の報告を中心にお伝えします。

○ 能登半島地震の復旧・復興状況の公表

令和6年能登半島地震の発生から1年9か月が経過した10月1日、国土交通省より9月末の時点での復旧・復興状況と今後の見通しが公表されました。

全体認識として、二次災害に直結するような切迫した被災箇所の応急対策は全て終了し、暮らしや生業の再生に向けた動きが本格化しつつあるとしています。

また分野ごとの状況として、上下水道については次の4点が公表されています、

- ① 水道本管と汚水処理機能については全てが復旧している。また水道普及困難地域等の27戸については令和10年度末までの復旧を目指す。
- ② 宅内配管については修理業者とのマッチングを実施。
- ③ 最先端の浄水技術等を利用した小規模分散型システムの技術実証などにより、地震に強い上下水道のあり又を全国に発信予定。
- ④ 下水道施設に甚大な被害が発生した地域においては、復旧にあたり下水道区域から浄化槽区域への見直しを実施中。

この他参考資料として、能登6市町における上下水道の本復旧に向けた次の取組状況を紹介しています。

- ・6市町では、詳細設計が完了した箇所から、順次本復旧工事を発注中
- ・このうち珠洲市については、小規模分散型水循環システムの技術検証と浄化槽区域への見直しを実施中。

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001913115.pdf>

○ 令和6年度上半期の事業実施状況

今年度上半期の事業実施状況がまとまりましたのでお知らせします。

① 工法別施工実績

上半期の施工実績は表-1の通りです。

上半期の実績は、ガリガリ君は19%減、一発くんは大幅に増えて39%の増となりました。

表-1 令和7年度上半期 工法別施工実績(4/1~9/30)

		工法別内訳		
		ガリガリ君		一発くん
		人孔数	管口数	管口数
令和6年度	上期	1,593	2,740	337
令和7年度	上期	1,293 (0.81)	2,284 (0.83)	470 (1.39)

() 内：上期対前年比

② 問合せ件数

表-2が事務局で対応した上半期の問い合わせ件数の実績です。

延べ件数は159件と前年実績の160件とほぼ同じ件数となっています。工法別、内容別にも昨年度とほぼ同じ実績となっています。

表-2 令和7年度上半期 協会本部への問い合わせ実績(4/1~9/30)

		延べ件数	工法別内訳		
			ガリガリ君	一発くん	フロートレス
問い合わせ件数		159 (160)	66 (66)	41 (40)	52 (54)
問い合わせ内容	見積関係	75 (75)	33 (31)	24 (22)	18 (22)
	資料請求	33 (31)	9 (10)	6 (6)	18 (15)
	質問	58 (61)	26 (29)	12 (12)	20 (20)

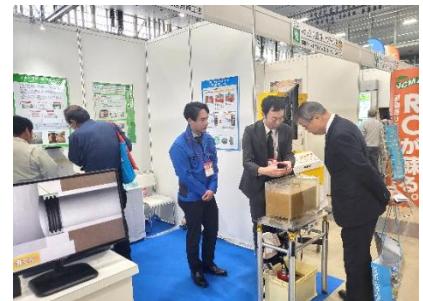
() 内：前年上期実績

○ 先端技術・防災・減災技術フェアin熊本2025が開催されます

「先端技術・防災・減災技術フェアin熊本2025」へ九州・沖縄支部が出展します。今年も液状化模型によるマンホール浮上実験を行いますので、九州沖縄地区の会員は是非来展してご覧ください。

- ① 名 称：先端技術・防災・減災技術フェアin熊本2025
- ② 開催期間：2025年11月19日（水）・20日（木）の2日間
- ③ 会 場：グランメッセ熊本
- ④ 出展内容：基礎小間 1小間
 - パネル展示
 - 3工法模型の展示
 - 消散弁展示
 - 液状化実験

写真-1 昨年度の出展状況



○ 「震災対策技術展」東北へ出展しました

仙台市で開催された、第12回「震災対策技術展」東北へ出展しました。東北地区での出展の実績は殆どありませんでしたが、近年東北地方の自治体からの問い合わせや見積依頼が増えているため、初めて本展示会に出展したものです（写真-2）。

- ① 名 称：第12回「震災対策技術展」東北
- ② 開催期間：2025年10月8日（水）～9日（木）
- ③ 会 場：仙台市中小企業活性化センター
- ④ 開催実績：出展社数 39社・団体、
入場者数 2,055人
- ⑤ 出展内容：
 - パネル展示
 - 3工法模型の展示
 - 消散弁展示



写真-2 協会ブースの出展状況

○ 北海道でフロートレス工法のデモ施工を行いました

現在北海道では、札幌市からフロートレス工法を継続的に受託し施工していますが、フロートレス工法の北海道内の他都市への普及拡大を図るため、日本ヒューム北海道支社が主催し、石狩市、恵庭市、苫小牧市の3市の12名の職員、コンサルタント等から7人、併せて19名の方を対象に技術説明会、およびデモ施工を下記により開催しました。

- ① 開催日時：令和7年10月9日（木） 13:30～15:30
- ② 会 場：苫小牧市 日本ヒューム苫小牧工場
- ③ 実施内容：
 - 1) フロートレス工法の工法説明（写真-3）
 - 2) 組立人孔を用いてのデモ施工（写真-4）



写真-3 事務所内での工法の説明



写真-4 組立マンホール側塊への消散弁設置のデモ施工

○ 運営委員会、品質確保委員会が開催されました

今年度第4回の両委員会が、10月24日に開催されました。今回の議題は次の通りです。

■ 運営委員会

1 事業運営事項

- ① 上半期の協会活動実績報告
- ② 東京都との意見交換会
- ③ 先端技術・防災・減災技術フェア in 熊本
2025への出展

■ 品質確保委員会

- ① 開発者の取組
- ② 令和7年度追跡調査
- ③ 令和7年度クロスチェックパトロール

2 報告事項

- ① 次期5か年計画策定状況
 - ② 第12回「震災対策技術展」東北への出展
 - ③ 名古屋市に対する技術説明会の実施
 - ④ 配管技術研究協会主催のセミナーでの講演
 - ⑤ 北海道でのフロートレス工法デモ施工の実施
 - ⑥ 会員の退会
 - ⑦ 品質確保委員会の審議事項・報告事項

○ 最近のニュースから

- 10月8日、「下水道管路メンテナンス技術の高度化・実用化推進会議」の第1回会合が都内で開催されました。本推進会議は、八潮市の陥没事故を受けて国が設置した「下水道等に起因する大規模な道路陥没事故を踏まえた対策検討委員会」の提言で、『管路メンテナンスの高度化に資する技術の早期かつ円滑な復旧を進めること』との方向性が示されたことから設置されたもので、管路メンテナンスの高度化に資する技術の早期かつ円滑な普及、現場実装のための環境整備の推進を目的としています。メンバーは、東京大学の加藤先生を委員長に、指定都市等、コンサレント、関連団体からのメンバーで構成され、事務局は国土交通省上下水道審議官グループ、国土技術政策総合研究所上下水道研究部、日本下水道新技術機構の3者が担当しています。検討課題の第一段階として、今回を含めた3回の会合で、年度内に管路内調査の無人化・省力化技術の調達環境整備に関するロードマップを策定する予定です。

協会からのお知らせ

○ 11月は東京都下水道局の「事故予防対策強化月間」です

東京都下水道局では、工事が最盛期を迎えるとともに事故の増える年末年始を控えた11月を「事故予防対策強化月間」とし、例年事故予防に係わる様々な行事が実施されます。今年も10月31日に開催された「下水道工事安全管理者講習会」を皮切りに、様々な取組みが予定されています。都内の会員につきましては、期間中下水道局と連携して、事故予防に向けての積極的な対応をお願いします。

期 間：11月1日（土）～30日（日）

安全標語：「違和感を感じたその場ですぐ指摘！」

「きめた手順 勝手に変えるな 事故のもと」

主な取り組み：下水道工事安全管理者講習会、

安全管理優秀現場の表彰

安全現場の表彰

パトロールの強化

- ① 会員の退会
令和7年10月1日付で、下記会員より退会届が提出されました。
会員名：日昇工業株式会社（東京都小平市）

これにより現在の会員数は、施工会員97社、設計会員3社、賛助会員4社、計104社となりました。

② 所在地の変更

日本水工設計株式会社の本社が、9月25日に下記住所へ移転しました。

旧：〒104-0054 東京都中央区勝どき3-12-1 フォアフロントタワー

新：〒108-0073 東京都港区三田3-5-19 住友不動産東京三田ガーデンタワー

編集後記

・「S S H」という言葉を聞かれたことがあるでしょうか。S S Hは文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール」で、先進的な科学技術、理科・数学教育を通じて、生徒の科学的な探求能力等を培うことで、将来社会を牽引する科学技術人材を育成するための取組です。現在47都道府県の230校が指定されており、学校ごとに様々な科学分野に関するユニークな取組が行われ、その成果の発表会も開催されています。

・今月の写真は、S S Hの指定校である宮城県多賀城高等学校の災害科学科が「災害対策技術展」東北に出展し、セミナーで防災教育のパイロットスクールとしての取組内容を発表している一コマです。多賀城高校の災害科学科は、阪神淡路大震災後に初めて兵庫県内の高校に設けられた1校に次いで2校目として、東日本大震災の後に設けられた新しい学科だそうです。先生や生徒の皆さんに、下水道施設の耐震化を研究テーマに入れてもらえるよう頼んでおきました。



東日本放送のニュースで放映された協会ブースの紹介画像

最近、一般の方は下水道と聞くと直ぐに八潮の陥没事故を連想するようです。せっかく放映された映像だったのに、テロップが 耐震工法=陥没防止 とされてしまいました。